

中心とされているので、時期的にも近く注目される。

9 関係文献

(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成一三年度』(2001年)

(田中一穂)

新潟・船戸桜田遺跡



- | | | |
|---|---------------|-----------------------|
| 1 | 所在地 | 新潟県北蒲原郡中条町船戸 |
| 2 | 調査期間 | 第五次調査 2001年(平13)4月~5月 |
| 3 | 発掘機関 | 中条町教育委員会 |
| 4 | 調査担当者 | 吉村光彦 |
| 5 | 遺跡の種類 | 官衙関連遺跡 |
| 6 | 遺跡の年代 | 八世紀~10世紀 |
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | |

船戸桜田遺跡は、塩津潟に流れ込む船戸川流域に立地する集落跡である。今回の調査は幅3mの調査区であったが、木簡が出土した

第二次・四次調査地点(本誌第二二・二三号)の上流に

あたる川跡を確認した。

川跡からは、少量の須恵器・土師器と、多数の木製品が出土した。木製品は、一点の漆器盤、一五点の盤、櫛や曲物、火鑽棒などがあ

る。木簡も川跡から出土し



(中条)

た。時期的には、八世紀後半から一〇世紀初頭まで続くが、木簡は九世紀中頃のものと考えられる。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「〔御カ〕符 □□黒緒直」

206×(72)×8 081

上下端は原形をとどめ、裏面は未調整である。上端は調整されていが、下端は原形をとどめ、裏面は未調整である。内容は、「〔御カ〕符 □□黒緒」(個人名)宛にだされた符の文書木簡の機構か)より、「□□黒緒」(個人名)宛にだされた符の文書木簡である。内容は、下端右側に記された「直」字から、宿直を命令した木簡の可能性がある。なお、木簡の釈読及び内容については、新潟市歴史文化課(当時)の相沢央氏のご教示によった。

9 関係文献

中条町教育委員会「船戸桜田遺跡四・五次 船戸川崎遺跡六次」
(一〇〇一年)

(水澤幸一)



(中条)

船戸川崎遺跡は、塩津潟に流れ込む河口近くの遺跡である。これまでに、二次・四次調査で木簡が出土している(本誌第二二号)。今回調査区は、封緘木簡が出土した二次調査区の東側に隣接し、その木簡が出土した川跡の上流を検出した。水路幅3m分の調査のため、川跡以外は確認できなかつたが、堰が認められた。遺物は須恵器・土師器・木製品などが多量に出土し、墨

新潟・船戸川崎遺跡

所在地	新潟県北蒲原郡中条町大字城塚
調査期間	第六次調査 二〇〇一年(平13)四月~五月
発掘機関	中条町教育委員会
調査担当者	吉村光彦
遺跡の種類	官衙関連遺跡
遺跡の年代	八世紀~一〇世紀初
遺跡及び木簡出土遺構の概要	7

船戸川崎遺跡は、塩津潟に流れ込む河口近くの遺跡である。これまでに、二次・四次調査で木簡が出土している(本誌第二二号)。今

回の調査区は、封緘木簡が出土した二次調査区の東側に隣接し、その木簡が出土した川跡の上流を検出した。

水路幅3m分の調査のため、川跡以外は確認できなかつたが、堰が認められた。遺物は須恵器・土師器・木製品などが多量に出土し、墨